



タイの人身取引被害者支援プロジェクトの関係者と吉田さん(右から2人目)。今後の事業の方向性を議論した

金融サービスへのアクセス改善で 自立につながる支援を

開発途上国の貧しい人々の自立につながるマイクロファイナンス。吉田進一郎さんは公認会計士としての経験と知見を生かし、一人一人が経済的な将来設計を立て自立できる社会の実現を目指して奮闘する日々だ。

日本の監査法人で 働いた経験を生かして

大学卒業時に公認会計士の資格を取り、監査法人で働いていました。主な担当は、電子機器メーカーや運送会社、映画製作会社といった企業の財務諸表が適切かを確認する監査業務。M&Aのアドバイザーを務めていたこともあります。監査の仕事で学ぶことはたくさんありましたが、次第に「会計や財務の知識を生かして、金銭的な利益よりもっと広く、社会的リターンを生み出す活躍をしたい」という思いが強くなってきました。そこで転職先として選んだのがJICA。広く社会に貢献できる道を模索していた私にとって、自然な流れだったのかも知れません。

調査から多くを学んだ 貧困削減プロジェクト

最初に配属されたのは、前職の経験が直接的に生かせる財務部。JICAの財務諸表の作成や、当時導入段階にあった新しい会計処理の検討に携わりました。自ら会計処理を行い、監査に向けて膨大な資料を用意するなど、監査を受ける側の大変さを再確認する日々でした。

社会基盤・平和構築部に異動してからは、マイクロファイナンス(MF)を担当。その一つが、中米ホンジュラスの貧困層の生活向上を支援するプロジェクトです。国家の重点



JICA社会基盤・平和構築部
ジェンダー平等・貧困削減推進室

吉田 進一郎
YOSHIDA Shinichiro

大学卒業後、公認会計士として監査法人に勤務。2010年からJICAに転職。財務部を経て、2011年から現職。

施策の一つとして貧困削減を掲げるホンジュラスでは、1990年代から貧困層を対象に「CCT(条件付現金給付制度)」を展開していますが、部分的な成果にとどまっています。そこで預金口座や融資など金融サービスにアクセスできない貧困層が、将来の備えや事業を始められるよう、金融へのアクセス改善を図りつつ人々の生計向上を支援する計画を立てたのです。

2015年の開始を目指してプロジェクトの準備を担当することになった私は、現地を訪問して政府関係者や貧困層にインタビューし、生活状況や問題点を調査しました。調査期間は1カ月。CCTの受給世帯を対象に、貧しい世帯にも預金や融資などの金融サービスを提供するMF機関とも連携して貧困削減に取り組み前例のない取り組み。関係者の合意を得て、より良いプロジェクトの枠組みをつくっていくのは容易ではありませんでした。そんな苦労の末に至った両国間のプロジェクト調印式で、ホンジュラス側から「この事業は国の未来に貢献する重要なプロジェクトだ」と言ってもらい、気持ちが高揚したのを覚えています。

自立を促す マイクロファイナンスの意義

MFは途上国の貧困層を「顧客」ととらえている点で、国際協力でも可能性がある



インドのマイクロファイナンス機関のCEOと

取り組みです。ビジネスとして金融取引が成立すれば持続的な貧困削減にもつながります。

しかし万能策ではなく、使い次第では過剰債務などが発生し、貧困層を苦しめてしまいます。健全な形でMFを必要とする貧困層に届くよう少しでも貢献したい。前職では貧困削減に携わる機会はありませんでしたが、会計や金融の知識を生かして人々の自立を促す今の仕事にやりがいを感じています。

現在の部署では、ジェンダーやMFを含めた貧困削減の視点、最新の国際的潮流の情報といった付加価値のある知見を他の部署に提供するなど、分野横断的な貢献が求められます。新しい取り組みに積極的にチャレンジして教訓を得る前向きな姿勢が必要になるため、国際会議や研修で専門性の高い他機関の出席者に刺激を受けながら、勉強の日々です。金融だけでなくさまざまな分野の経験を積んで専門性を磨き、もっと世界に貢献できるように、これからも努力していきます。